

# 陸連時報 第三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013

5

月号  
平成25年

# 2013年度主要競技会日程

	主催大会			後援大会・協力団体主要大会			国際大会		
	期日	大会名	場所	期日	大会名	場所	期日	大会名	場所
4月	21(日)	97 日本選手権 50km競歩	石川(輪島)	6(土)	★ 22 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)			
	21(日)	15 長野マラソン	長野	21(日)	★ GP ①兵庫リレー カーニバル	ユニバー記念 (兵庫)			
				20(土)~21(日)	★ 67 出雲陸上	浜山 (高根)			
			27(土)~28(日)	★ GP ②日本選抜陸上 和歌山	紀三井寺 (和歌山)				
			28(日)~29(祝)	★ GP ③織田記念陸上	広域公園 (広島)				
5月	5(祝・日)	ゴールデンランプリ	国立(東京)	3(祝・金)	★ GP ④静岡国際陸上	エコパ (静岡)	4(祝・土)	アジア GP	バンコク (タイ)
				11(土)	★ 24 ゴールデンゲームズ in のべおか	延岡 (宮崎)	8(水)	アジア GP	チョンブリ (タイ)
				12(日)	★ 23 仙台国際ハーフマラソン	宮城	12(日)	アジア GP	コロンボ(スリランカ)
			19(日)	★ 3 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜				
6月	1(土)~2(日)	59 全日本中学通信陸上	各地						
	1(土)~2(日)	97 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	21(金)~23(日)	○ '13 日本学生個人	平塚(神奈川県)			
	7(金)~9(日)	97 日本陸上競技選手権混成	味素スタジアム(東京)	30(日)	★ 28 サロマ湖 100km ウルトラマラソン	北海道			
7月	30(火)~8/3(土)	66 全国高校陸上	大分銀行ドーム (大分)	7(日)	★ 26 南部記念陸上	円山(北海道)	3(水)~7(日)	20 アジア陸上競技選手権	チェンナイ(インド)
							7(日)~12(金)	27 ユニバーシアード	カザン(ロシア)
8月	12(月)~14(水)	48 全国定通制高校陸上	国立(東京)	4(日)	★ 38 蔵王坊平クロカン	かみのやま(山形)	10(土)~18(日)	8 世界ユース陸上競技 選手権	ドネツク (ウクライナ)
	18(日)~19(月)	48 全国高専陸上	いわき(福島)	4(日)	★ 10 阿蘇クロカン	阿蘇(熊本)	19(月)~22(木)	14 世界陸上競技選手権	モスクワ(ロシア)
	19(月)~22(木)	40 全国中学陸上	瑞穂(愛知)					2 アジアユースゲームズ	南京(中国)
	23(金)~24(土)	29 全国小学生陸上	日産スタジアム (神奈川)	25(日)	★ 13 北海道マラソン	北海道			
	31(土)~9/1(日)	1 全国高校陸上選抜	長居第2(大阪)						
9月				6(金)~8(日)	○ 82 日本学生対校	国立(東京)			
				6(金)~8(日)	★ 34 全日本マスターズ	県総合(佐賀)			
				20(金)~22(日)	★ 61 全日本実業団	熊谷(埼玉)			
10月	4(金)~8(火)	68 国民体育大会	味の素スタジアム (東京)	14(祝・月)	○ 25 出雲全日本大学選抜 駅伝	高根	9(水)~12(土)	6 東アジア競技大会	天津(中国)
	18(金)~20(日)	29 日本ジュニア選手権	瑞穂(愛知)	19(土)	★ 53 実業団・学生対抗	平塚(神奈川県)			
	18(金)~20(日)	7 日本ユース選手権	瑞穂(愛知)	20(日)	★ 10 田島記念陸上	蕨新百年記念(山口)			
	25(金)~27(日)	97 日本選手権リレー	日産スタジアム (神奈川)	27(日)~11/3(日)	★ 62 九州一周駅伝	九州			
	25(金)~27(日)	44 ジュニアオリンピック	日産スタジアム (神奈川)	27(日)	★ 52 全日本 50km競歩高島	山形			
				27(日)	★ 3 大阪マラソン	大阪			
11月	17(日)	5 横浜国際女子マラソン	神奈川	3(祝・日)	○ 45 全日本大学駅伝	愛知・三重			
	23(祝・土)	'13 国際千葉駅伝	千葉	10(日)	★ 29 東日本女子駅伝	福島			
	1(日)	67 福岡国際マラソン	福岡	15(日)	★ '13 全日本びわ湖クロカン	希望が丘(滋賀)			
	7(土)~8(日)	16 小学生 クロスカントリーリレー	万博記念公園 (大阪)	15(日)	★ 33 全日本実業団女子駅伝	宮城			
	15(日)	21 全国中学駅伝	山口	15(日)	★ 44 防府読売マラソン	山口			
12月	22(日)	64 25 全国高校駅伝	京都	23(祝・月)	★ 32 山陽女子ロード	岡山			
	12(日)	32 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(祝・水)	★ 58 全日本実業団駅伝	群馬			
	19(日)	19 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(祝・水)	★ 62 元旦競歩	東京			
	26(日)	33 大阪国際女子マラソン	大阪	26(日)	★ '14 大阪ハーフマラソン	大阪			
	1(土)~2(日)	'14 日本ジュニア室内大阪	大阪城ホール (大阪)	2(日)	★ 63 別大マラソン	大分			
2月	9(日)	49 千葉国際 クロスカントリー	昭和の森 (千葉)	2(日)	★ 68 香川丸亀国際 ハーフマラソン	香川	6 アジア室内選手権		
	16(日)	97 日本選手権男女 20km競歩	兵庫	9(日)	★ 54 唐津 10 マイル	佐賀			
	22(土)	28 福岡国際 クロスカントリー	海の中道海浜 公園(福岡)	16(日)	★ 48 青梅マラソン	東京	22(土)	12 アジア クロスカントリー	海の中道海浜 公園(福岡)
	23(日)	14 東京マラソン	東京	16(日)	★ 58 熊日 30km	熊本			
				16(日)	★ 42 実業団ハーフマラソン	山口			
3月	2(日)	69 びわ湖毎日マラソン	滋賀	2(日)	○ 17 日本学生ハーフマラソン	東京	7(金)~9(日)	15 世界室内選手権	ソボット (ポーランド)
	9(日)	'14 名古屋 ウィメンズマラソン	愛知	16(日)	○ 8 日本学生 20km競歩	石川	16(日)	'14 アジア陸上競技 選手権・20km競歩	能美(石川)
	16(日)	38 全日本競歩能美	石川	16(日)	★ 35 まつえレディース ハーフ	高根	29(土)	21 世界ハーフマラソン	コペンハーゲン (デンマーク)
				16(日)	○ 17 日本学生女子 ハーフマラソン	高根			

★=後援大会、○=協力団体主要大会

# 理事会報告

## 第11回理事会

日時：2013年3月14日（木） 14時00分～16時43分

場所：小田急第一生命ビル11階会議室

### 【議題】

#### 〈協議事項〉

1. 第3期事業計画・収支予算
2. 2012年度栄章
3. 栄章規程改定
4. 新規主催競技会 第1回全国高等学校陸上競技選抜大会の開催
5. 2013年度主要競技会日程
6. 後援競技会規程の新設
7. 強化競技者の処遇
8. S級公認審判員昇格候補者
9. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程改定

#### 〈報告事項〉

1. 第20回アジア陸上競技選手権大会（2013/チェンナイ）日本代表選手選考要項
2. 第6回東アジア競技大会（2013/天津）日本代表選手選考要項
3. 強化競技者の追加
4. 第40回世界クロスカントリー選手権大会（2013/ビドゴシチ）日本代表選団
5. 市民マラソン・ロードレース運営ガイドライン

### 【議事内容】

開会に先立ち、風間局長より理事定数29名、出席者数27名で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る（開会后29名全員出席）。

#### 〈協議事項〉

##### 1. 第3期事業計画及び収支予算

尾縣専務理事より事業計画について、杉本理事より収支予算について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに承認された。事業計画の要旨は以下の通り。（事業計画及び収支予算は本連盟公式ホームページに掲載）

- ・選手の競技力強化並びに普及活動を2本の柱として、それを支える組織基盤の確立を目指すための事業を計画している。
- ・諸事業のポイントは以下の通り。

##### 1 選手強化事業

日本代表選手の国際競技会への派遣事業が中心であるが、中でも2013年度は8月の世界選手権に重点を置く。また、中長期的な戦略として、次世代を担うU19、U23の強化育成事業をさらに発展させる。

##### 2 普及事業

2012年度は指導者制度を新制度のもと実施し一定の成果が得られたため、2013年度はこれを全国展開していく。また、中体連と連携し、中学生のブロック合宿を実施する。

##### 3 その他

- ・加盟団体法人化につき、2013年4月1日時点で40の団体が法人格取得の予定であり、残り7団体となっている。
- ・ドーピング防止活動においては、2013年度から尿検査だけでなく血液検査を導入する。
- ・2014年2月には、アジアクロスカントリー選手権を福岡で開催する。

なお、原田理事・強化委員長より、強化システムの大幅な変更（具体的には強化競技者の人数を絞り一人当たりの強化費は増額したこと、合宿では味の素NTCをより積極的に活用することなど）により強化費を削減したが、強化事業はこれまでと同様に実施可能であり、より効率的な強化費の利用を図ることを報告した。

##### 2. 2012年度栄章

尾縣専務理事より、栄章候補者につき資料に基づき説明があり、承認された。

※2012年度の功労章、秩父宮章は表1、表2参照。

##### 3. 栄章規程改定

尾縣専務理事より、栄章規程における「競技者育成章」の改定につき資料に基づき説明があり、承認された。要旨は以下の通り。

- ・競技者育成章はオリンピック及び世界選手権入賞者の育成指導にあたった者に授与するものであり、現在のコーチのみならず、それまでに指導してくださった指導者にも感謝の意を伝える意味で設けた章である。しかし、個数を限定せず、また陸上競技に限らずスポーツに導いた指導者も対象としていたことにより章の意味合いが薄れる可能性が生じたため、「小学校以上で陸上競技の育成指導にあたった者2名以内」と改定する。

表1 功労章 (年齢は2013年3月31日現在)

地域	氏名	年齢
東京	田中 利雄	75
近畿	植月 正章	74
本部	丸山吉五郎	88

表2 秩父宮章 (年齢は2013年3月31日現在)

地域	都道府県	氏名	年齢
北海道(1)	北海道	井内 石生	77
東北(3)	青森	三浦 憲二	65
	秋田	佐藤 隆	65
	山形	安孫子元春	70
関東(5)	茨城	小林 邦夫	80
	群馬	鳥羽 完司	67
	埼玉	小林 貞雄	76
	神奈川	高橋 靖	78
	山梨	流石喜久巳	83
東京(1)	東京	市村 眞	85
北陸(2)	石川	永江 庸悦	71
	福井	遠藤 鉄雄	68
東海(4)	静岡	望月 紘一	68
	愛知	外山 修	68
	愛知	水野 隆夫	62
	三重	松澤 二一	59
近畿(4)	大阪	岡田 邦夫	61
	兵庫	岡本 敏信	75
	奈良	中窪 章二	59
	和歌山	小串 親秀	65
中国(3)	島根	齋藤 重徳	64
	岡山	神達 靖久	66
	山口	山田 好章	76
四国(2)	徳島	播磨 純代	69
	高知	山添 裕一	75
九州(4)	福岡	徳永 憲昭	故人
	長崎	石橋 善弘	70
	大分	濱本 俊夫	71
	鹿児島	前村 悟	76
本部(6)	実業団	樋高 勇二	57
	学連	近藤 勲	77
	マスターズ	織田 和雄	77
	高体連	橋本 秀樹	55
	普及育成	岩壁 達男	70
	科学	伊藤 章	64

#### 4. 新規主催競技会 第1回全国高等学校陸上競技選抜大会の開催

尾縣専務理事より、新規主催競技会である「第1回全国高等学校陸上競技選抜大会」の開催につき資料に基づき説明があり、承認された。要旨は以下の通り。

- ・高体連陸上競技部からの要望により、インターハイで実施されていない女子棒高跳、三段跳、ハンマー投、そして日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会に実施されていた男子10000m、女子5000mを吸収し、混成競技も加えて新たな競技会を開催する。
- ・会場は大阪・長居第2陸上競技場、期日は8月31日・9月1日の2日間。
- ・参加資格は標準記録制として、インターハイの勝ち上がりとは異なるものとしている。
- ・本大会の経費は第3期予算に計上されている。

なお、原田理事・強化委員長より、実施種目に対しては現場の指導者からも要望を受けている種目であることが補足として説明された。

また、山澤理事・医事委員長からは、開催時期及び場所を鑑み、審判の方々への健康管理に留意するよう、発言があった。

#### 5. 2013年度主要競技会日程

尾縣専務理事より主要競技会日程につき資料に基づき説明があり、承認された。昨年度との主な変更点は下記の通り。

- ・2月1日・2日の日本ジュニア室内大阪につき、2012年度までは2日間のうち1日を日中交流ジュニア室内大会として開催していたが、国際情勢により中国からの出場がなかったため、2013年度は日本ジュニア室内として、土曜日の午後及び日曜日の2日間の開催とする。
- ・3月16日の全日本競歩能美大会につき、2012年度までは1週間前の開催であったが、公立高校の入学試験時期と重なることで審判確保が困難であること、また日本選手権男女20km競歩との日程間隔を延ばし、有力選手の出場を増やしたいとの強化上の理由から、この日程となった。

なお、友永理事より実業団ハーフマラソンについて、世界ハーフマラソンの開催時期変更に伴い、2月開催に変更する旨、報告があった。

#### 6. 後援競技会規程の新設

尾縣専務理事より、後援競技会規程の新設につき資料に基づき説明があり、承認された。要旨は以下の通り。

- ・本連盟が後援する競技会の基準として、本規程を策定した。



- ・申請時期はこれまで年1回であったが、新規程では年4回に分けた。
- ・共催、後援、協力に新聞社あるいはテレビ局が入っていることが条件となっている。
- ・医務及び救護体制、またドーピング検査の実施につき明確に位置付けている。
- ・本連盟からJTO、NFRの派遣に言及している。
- ・競技会終了後、後援競技会として適当かどうかを評価する。
- ・後援競技会の認定は「後援競技会認定委員会」において決定する。
- ・認定された競技会にはロゴを付与し、トロフィーの製作も許可する。

## 7. 強化競技者の処遇

原田理事・強化委員長から、強化競技者の処遇につき資料に基づき説明があり、承認された。要旨は以下の通り。

- ・強化費につき、メダルに近い競技者であるゴールドアスリートは年間1000万円、入賞に近い競技者であるシルバーアスリートについては500万円の資格を付与する。
- ・年度初めに強化競技者とは面談を行い、年間計画や強化費の利用方法につき確認する。
- ・強化費の対象を拡大し、トレーニング環境の充実化を図る目的での活用も認めるが、細部については適正な運用となるよう、専務理事等にも確認を取りながら運用する。
- ・競技会への招待、味の素NTCの活用、スタッフの指定、年度途中の資格取得者、昇格者の強化費支給基準は従来通りとする。

## 8. S級公認審判員昇格候補者

吉儀理事・競技運営委員長より、S級審判員昇格候補者につき資料に基づき説明があり、承認された。

## 9. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程改定

施設用器具委員会の平塚副委員長より資料に基づき説明があり、承認された。要旨は以下の通り。

- ・国際陸連（IAAF）の基準では、国際競技会を開催するためにはIAAFクラス1もしくはクラス2の取得が条件となる。ただし、国内の規程では、国際競技会の開催条件は第1種公認陸上競技場でなければならない。ただし、IAAFクラス1、クラス2は国内2種、3種競技場でも取得可能であるため、両者の整合性を図るため本規程附則に「国際陸上競技連盟認証のクラス1、クラス2競技場の

資格を取得するための申請は、国内の第1種公認陸上競技場でなければならない」と定め、クラス1、クラス2は第1種公認競技場のみ申請できるものとする。

## 〈報告事項〉

### 1. 第20回アジア陸上競技選手権大会（2013/チェンナイ）日本代表選手選考要項

原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があった。

### 2. 第6回東アジア競技大会（2013/天津）日本代表選手選考要項

原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があった。

### 3. 強化競技者の追加

前回の理事会から追加となったゴールド及びシルバーアスリートにつき、原田理事・強化委員長より報告があった。

### 4. 第40回世界クロスカントリー選手権大会（2013/ビドゴシチ）日本代表選団

原田理事・強化委員長より、本大会日本代表選手団につき資料に基づき報告があった。

### 5. 市民マラソン・ロードレース運営ガイドライン

吉儀理事・競技運営委員長より本ガイドラインにつき資料に基づき説明があった。要旨は以下の通り。

- ・全国各地で大型マラソン大会が開催されているが、事故のない円滑な大会運営のための指針として、本連盟がランナーではなく主催者向けに作成したものである。従って、マラソン大会の主催者にはチェックリストとして活用してもらいたい。

### 6. その他

吉儀理事・競技運営委員長より、2013年4月1日以降に実施する本連盟主催・共催の全競技会において、不正スタートは1回で失格となるルールが適用になる旨報告した。

また、IAAFが、手や足が地面から離れない限り体が動いても不正スタートとならず警告とし、警告2回で1回の不正スタートとして失格とする、というルール改正があった旨報告した。

# 強化関連情報

強化委員会

## オリンピック育成競技者長距離

**U19海外研修合宿報告** 強化育成部長距離主任 荻原知紀  
強化育成部男子長距離 足立幸永

### ◎合宿の目的

- ①若い世代から海外経験を積むことにより、より高いレベルを目標とする選手育成。
- ②言葉や生活習慣が違う海外での生活を通して、国際的な視野を持った選手育成。
- ③海外一流選手のトレーニングを肌で感じ、自分たちの競技力向上につなげる。

### ◎派遣選手

男子 平 和真（豊川工業高校3年）  
西山 雄介（伊賀白鳳高校3年）  
中谷 圭佑（西脇工業高校3年）  
廣田 雄希（西脇工業高校3年）  
女子 矢野 栞理（北九州市立高校3年）  
菅野 七虹（立命館宇治高校3年）  
内藤早紀子（市立船橋高校3年）

### ◎トレーニング状況及び成果

平成25年1月22日（火）～2月2日（土）に、オーストラリアのメルボルンでオリンピック育成競技者長距離U19海外研修合宿を実施した。この合宿は、昨年に引き続き2回目となり、昨年の課題点を克服すべく環境整備を第一に考えて計画した。1点目は日程である。今年は、第40回世界クロスカントリー大会が実施される年でもあり、その予選会にあたる2月10日（日）千葉国際クロスカントリー大会・2月23日（土）福岡国際クロスカントリー大会に重ならないように配慮した。2点目は、昨年外食ばかりで体調管理の面で苦労したので、今年はキッチン付きの自炊ができる宿泊場所（BATMAN'S HILL ON COLLINS HOTEL）を選択した。3点目は、現地選手との合同練習会を増やしてもらえるように、オーストラリア陸連の方をお願いをしてトレーニング計画を実施した。

トレーニングの面（別表1）では、（1/26）国立公園内での不整地ヒルトレーニングで、ロングインターバルの間が30秒・セット間が1分と、とても内容の濃い練習が印象的だった。また、芝生トラックを使っのインターバルトレーニング（1/29）では、2000m（72秒）4周目（70秒）+1600m（70秒）3周目（68秒）+1200m（68秒）2周目（66秒）といったように、ラストをあげるのではなく、その前にペースをあげて、また落とすという風に練習の中で揺さぶりをイメージしたトレーニングが印象的だった。この練習では、ロンドンオリンピック1500m・5000mのファイナリストや昨年の世界陸上出場者など7カ国の選手達と一緒に練習ができ、子どもたちが目の色を変えて「きつかったけど楽しかった」と嬉しそうな顔をしている時に派遣選手たちの意識レベルの高さと、海外での合宿の重要性を確信した。また、疲労回復の



同世代の選手との練習の様子

為のトレーニングでは、近くの芝生公園やプールなどを使用することもでき、トレーニング環境についてはとても良かった。

体調管理の面では、選手が自炊を行ったのでしっかり食べながらもカロリーを抑える事ができ、全員良い状態で合宿を終える事ができた。

### ◎総評

今回はオーストラリアのTimコーチのもと、良い環境で充実した練習ができた。昨年度の課題点を克服しながら計画を立てることができたので、昨年以上に充実した研修合宿になった。

このように、若い世代から言葉が不自由な海外での生活は、貴重な体験になり、今後の競技人生の中でも大きな影響を与えると確信した。

### ◎男女別トレーニングメニュー（別表1）

表1 男女別トレーニングメニュー

月/日	男子	女子
1/24 (木)	PM 70分集団Jog	PM 40分Walk & Jog
1/25 (金)	早朝 60～90分 Free Jog	早朝 30分～40分 Walk & Jog
	AM 60分 Jog（芝生公園450m）	AM 60分 Jog（芝生公園450m）
1/26 (土)	早朝 各自Jog	早朝 各自Jog
	AM（2000m+1000m）×2 セット	AM 60分 Jog（Hill Training）
1/27 (日)	早朝 60～90分Free Jog	早朝 60分Free Jog
	AM 95分 集団Jog（メルボルン市内）	AM 20分間走×2セット 90分水泳（プール）
1/28 (月)	早朝 60分Free Jog	早朝 11250m（4'00"） 芝生公園集団走
	AM 60分 Jog（芝生公園450m）	PM 4kコース×2セット
1/29 (火)	早朝 各自調整Jog	早朝 30分Jog +20分ビルドアップ走
	AM 2000m+1600m +1200m+300m×4本	AM 1200m+400m×3 +1200m+300m×2 +1000m
1/30 (水)	早朝 60分Free Jog	早朝 11250m（4'00" - 3'40"）ビルドアップ走
	AM 60分 Jog（芝生公園450m）	AM 10時から4時まで Walk & Tram散策
1/31 (木)	早朝 60分Free Jog	早朝 40分Free Jog
	PM 400m×8本（67） +400m（54）	PM（600m+200m） ×5セット
2/1 (金)	早朝 60分 Free Jog	早朝 13500m（4'00"） 芝生公園集団走
	AM移動日	AM移動日



自炊した食事を楽しむ様子



練習後の記念撮影

## オリンピック育成競技者短距離

U23・U19海外研修合宿報告 強化育成部長 山崎一彦  
研修合宿期間／2013年2月19日から2月28日

場 所／オーストラリア タスマニア州ホバート

参 加 者／競技者：大瀬戸一馬、橋元晃志、愛敬彰太郎、松本岳大（以上U19）、飯塚翔太、安部孝駿（以上U23）  
スタッフ：山崎一彦（強化育成部長）、麻場一徳（U23統括）、豊田裕浩、村上博之（トレーナー）、石川未知（栄養サポート）

### 1. 合宿の目的

強化委員会は、ジュニア期からシニア期にかけての世界一流競技者としてのパスウェイを考え、自ら導いていく行動と考えるように育成していくことを重要視している。すなわち、競技に関する技術および体力的要素を向上させるという主旨よりも、U23は海外でのコミュニケーションと世界に視野を広げた考えと活動を自らの手でできるように育成していく事。U19（高校3年生）は、来春から大学生となる新環境の中で、異環境の中でも自身を確立して生活しながら競技力を向上させていく事を目的としている。参加者は、U19から大瀬戸一馬、橋元晃志、愛敬彰太郎、松本岳大の4名、U23からは既にオリンピックおよび世界選手権において日本代表経験のある飯塚翔太（200m）、安部孝駿（400mH）だった。

今回の海外研修合宿のプログラムにおいて特に重要視している事は、U19では個のコミュニケーションと海外での初歩的なコミュニケーションが取れるようになることと、異環境での生活力と行動力を身につけることである。U23では、本当に強い世界的な選手になる事を目指している。デレゲーションを組んでの国際大会出場だけでなく、広い視野で国際感覚を身につけるための海外トレーニングサポートや、今後のダイヤモンドリーグなどに参戦できるための知識と方法について教育していくことであった。

### 2. 海外でのトレーニングと成果

競技者自身が海外でも独自の活動ができるようにする事が合宿の主旨であるが、U19の高校生を連れて行く事もあり、導入段階として比較的安全である事、短期間であるため時差は最小限に留め温暖であるオーストラリア（タスマニア州ホバート）で研修を行った。

U19の参加者4名は、シドニーオリンピック女子400mで母国に金メダルをもたらしたキャシー・フリーマンのコーチPeter Fortune氏にコーチングを受け、更に地元陸上クラブのDamian Lawler短距離コーチには、クラブメイトと一緒にトレーニングする機会を設けてもらい、そこでコーチングを受ける事となった。トレーニング内容としては、終始ベーシックな部分での展開であったが、理論立ててトレーニングに結びつけていたり、展開に一貫性があったため、参加競技者もだいたいの流れはつかみやすかったのではないと思った。

一般的な日本人の英語力という障害があったが、現地競技者のレベルよりも日本の参加競技者の方が高かったため、臆する事なくコミュニケーションを取る事ができたのではない。1日のトレーニングの課題だけでなく、「今日は、コーチに自分の名前を呼んでもらう事」というコミュニケーション課題を挙げて臨んだ。総体的に全員とても積極的にトレーニングとコミュニケーションを取りながら良い雰囲気で行ってきた。特に積極的に実行できたのは松本岳大だった。

生活においても自立できる企画を取り入れている。昨年のU21、U19海外研修に引き続き、管理栄養士による実践指導

をお願いした。実践指導とは、実際に自身で買い物に行ってもらふことからはじめ、自身で料理していく、食べる、食べてもらうというものである。自身のパフォーマンスを決めるものは自身の体であり、それらの細胞を作るのは一つ一つの食べ物からなっているという石川氏の教えが印象的であった。研修合宿終盤を迎えると、競技者は時間のない時も食材のやりくりを効率的に行う事ができた。U19の新学期から大学生になる4人にとってはとても有意義なものとなった。また、海外での競技を行う場合、いつも自炊ができる訳ではない。レストラン等の外食の頻度も増えることから、海外での外食の仕方について考えたかった。しかしながら、選手の英語能力の低さと経験のなさから、ファストフード的なものを選んでしまう傾向がうかがえた。これら食行動を正す事が次の課題となった。

U23に関しては、飯塚、安部ともに独立したトレーニングをマイペースでこなせた。練習はもとより、今後の海外展開について十分な時間を取ってミーティングできた事が収穫であった。

### 3. 日本と海外トレーニングの比較、雑感

ホバートのクラブには、16歳からジュニア層の競技者がたくさん所属していた。それぞれの競技者は、体格の比較から大人びて見えるところがあったが、とても気配りができ、先回りして行動ができる競技者がとても多かった。その点、日本人は言葉のせいもあるが、群れをなして行動するところが目立った。またU19の日本選手は、体幹がまだ弱く、接地のタイミングがサーフェイスや風などの影響で外れると走れなくなる。

しかし、こちらの競技者はまだタイムこそ良くないが、体幹がしっかりしており、多少の環境変化では動じないので、今後の成長とともにタイムが向上する予感がした。金メダリストを指導したPeter Fortune氏は「この中で、誰が将来速くなると思う？ 将来だよ」と聞かれた事が印象的で、私たちコーチ仲間の話は、現在の動きではなく、「今はこうなると、成長するようになる」というように、将来の動きについて常に話していた。この言葉の裏には「ジュニア世代のコーチは、今のタイムや成績を出させる事が優秀なコーチではなく、将来強くなる選手を発掘する事と輩出する事が大事だよ」というジュニア世代の指導に当たる時に、もっとも重要な事を感じ取った。

## 第20回アジア陸上競技選手権大会

(2013/チェンナイ) 日本代表選手選考要項

大会期日：2013年7月3日（水）～7月7日（日）

開催地：チェンナイ（インド）

### 1. 編成方針

- (1) 第14回世界陸上競技選手権大会（2013/モスクワ）へ向けた重要な国際競技会として位置づける。
- (2) メダル獲得及び6位入賞を目指す選手団編成とする。

### 2. 選考競技会

- ・第97回日本陸上競技選手権大会（2013/東京）
- ・第97回日本陸上競技選手権大会・混成競技（2013/長野）
- ・2013年日本グランプリシリーズ各大会（2013/兵庫・和歌山・広島・静岡）
- ・セイコーゴールデングランプリ陸上 2013東京

### 3. 選考基準

- (1)トラック&フィールド種目

第97回日本選手権大会（以下、日本選手権）に出場した競技者で、有効期間内に派遣設定記録を満たした競技者の中から、以下の選考基準①、②の順で編成方針に基づき各種目最大2名選考する。

- 1 日本選手権で優勝した競技者
- 2 日本選手権で8位以内、又はそれ以外の各選考競技会日本人3位以内の競技者

#### (2) リレー種目

リレー種目の代表選考は、リレーの特性を考慮し選考する。

#### 4. 選考方法

全ての選考競技会終了後、選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。

#### 5. 補足

- (1) 種目毎の代表は、アジア陸上競技連盟エントリールール以内の人数とする。
- (2) 派遣設定記録の有効期間は、2012年4月1日～2013年6月9日までとする。
- (3) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

### 第6回東アジア競技大会（2013／天津）

#### 日本代表選手選考要項

大会期日：2013年10月9日（水）～10月12日（土）

開催地：天津（中国）

#### 1. 編成方針

本大会でのメダル獲得を目指す選手団編成とし、リオデジャネイロオリンピックへ向けた強化戦略として、将来的に活躍が期待される若手競技者を積極的に派遣する。

#### 2. 選考競技会

##### (1)トラック&フィールド種目

- ・第97回日本陸上競技選手権大会（2013／東京）
- ・第97回日本陸上競技選手権大会・混成競技（2013／長野）
- ・2013年日本グランプリシリーズ各大会（2013／兵庫・和歌山・広島・静岡）
- ・セイコーゴールデングランプリ陸上 2013東京

##### (2) 競歩種目

- ・第96回日本陸上競技選手権大会・20km競歩（2013／神戸）
- ・第37回全日本競歩能美大会（2013／能美）
- ・2013年アジア陸上競技選手権・20km競歩（2013／能美）

#### 3. 選考基準

##### (1)トラック&フィールド種目

第97回日本陸上競技選手権大会（以下、日本選手権）に出場した競技者で、有効期間内に派遣設定記録を満たした競技者の中から、日本選手権及び各選考競技会での成績がより上位の競技者を、編成方針に基づき各種目最大2名選考する。

また、選考競技会における成績が同程度であった場合は、強化委員会が推薦する競技者を優先的に選考する場合がある。

##### (2) 競歩種目

各選考競技会での成績・編成方針に基づき各種目最大2名選考する。

##### (3) リレー種目

リレー種目の代表選考は、リレーの特性を考慮し選考する。

#### 4. 選考方法

全ての選考競技会終了後、選考基準に則り、強化委員会に

て選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。

#### 5. 補足

- (1) 派遣枠については、派遣母体である公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）により決定される。
- (2) 派遣設定記録の有効期間は、2012年4月1日～2013年6月9日までとする。
- (3) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。

### 第20回アジア陸上競技選手権大会（2013／チェンナイ）

#### 第6回東アジア競技大会（2013／天津） 派遣設定記録

男子		種目	女子	
アジア選手権	東アジア競技大会		アジア選手権	東アジア競技大会
10.33	10.36	100m	11.54	11.80
20.80	20.85	200m	23.66	24.10
46.44	46.90	400m	53.28	54.80
1,48.39	1,49.50	800m	2,04.24	2,07.50
3,43.84	3,47.00	1500m	4,21.43	4,22.00
13,56.00	—	5000m	15,42.00	—
28,28.00	28,28.00	10000m	32,20.00	32,20.00
13.60	13.90	110mH/ 100mH	13.30	13.50
50.00	50.50	400mH	57.90	58.30
8,38.00	8,48.00	3000mSC	10,20.00	10,30.00
7.90	7.75	走幅跳	6.45	6.15
16.60	15.90	三段跳	13.90	12.75
2.22	2.17	走高跳	1.90	1.75
5.35	5.30	棒高跳	4.05	3.85
19.00	16.50	砲丸投	16.00	14.60
60.00	52.00	円盤投	59.00	49.00
69.00	64.00	ハンマー投	61.00	56.00
77.00	73.00	やり投	55.00	53.00
7500	7100	十種競技 /七種競技	5400	5000

#### 2013年度強化競技者について

2013年4月1日からの日本陸上競技連盟強化競技者について、下記にてお知らせいたします。

#### ◇ゴールドアスリート1名

No.	氏名	所属	種目
1	室伏 広治	ミズノ	男子ハンマー投

#### ◇シルバースリート11名

No.	氏名	所属	種目
1	中本健太郎	安川電機	男子マラソン
2	前田 和浩	九電工	男子マラソン
3	岸本 鷹幸	富士通	男子400mH
4	鈴木 雄介	富士通	男子20km競歩
5	森岡紘一郎	富士通	男子50km競歩
6	ディーン元気	早稲田大学	男子やり投
7	新谷 仁美	ユニバーサルエンターテインメント	女子10000m
8	福士加代子	ワコール	女子10000m・マラソン
9	木崎 良子	ダイハツ	女子マラソン
10	野口みずぎ	シスメックス	女子マラソン
11	瀧瀬真寿美	大塚製薬	女子20km競歩



# 国際陸連医事ドーピング防止コミッション(MADC)会議報告

理事・医事委員長 山澤文裕 (IAAF 医事ドーピング防止コミッション委員)

2013年2月8日および9日にMADC会議が国際陸連 (IAAF) 本部のあるモナコで開催された。委員は12名で、ヨーロッパ7名、北米2名、アフリカ2名で、アジアからは筆者のみが委員に任命されている。会議前日の7日にはMADC会議を円滑に実施するための事前ミーティングに参加した。

8日の会議に先立ち、IAAF エッサ・ガブリエル事務総長から2016年までの目標が明らかにされた。IAAFのVisionとして“To lead, govern and develop worldwide the sport of athletics in all its forms, uniting the Athletics family in a spirit of Excellence, Integrity and Solidarity.”を掲げ、Mission, Objectiveを明確に打ち出し、それに基づくコミッションの成果を求めた。続いて、アロンソMADC委員長 (スペイン) より当面はIOC、FIFAなどと共同作業による「疾病障害予防調査」と「大会参加前健康診断」について注力し、ドーピング防止については競技者生物学的パスポート (ABP) の拡大を図っていくことが示された。ロンドンオリンピックの医療環境はこれまでの中で最高で、ドーピング検査も素晴らしかった、と報告された。陸上競技会およびロードレースにおける医事運営について詳細に記載した「IAAF Competition Medical Guidelines」は、筆者が作成に深く関与してきたが、まもなく発刊されると報告された。IAAFドレ医事ドーピング防止部長より、ABP管理に細心の注意が払われていること、ドーピング防止に関してセミナー、アウトリーチプログラム、血液ラボ、WMM (World Marathon Majors) での血液検査、などについて言及があった。IAAFが医事およびドーピング防止に関して、IOCやFIFAと並んでスポーツ界の中心の1つであり、ありつづけることが求められていることが強調された。

## 医事関連

### 1. 疾病障害予防調査

2007年大阪世界陸上の時に行われた「大会時新規発生障害調査」は、ベルリンからは「大会時新規発生疾病障害調査」として、整形外科的疾患のみならず内科的疾患の発生も調査している。世界陸上における調査研究成果はIAAFより毎回論文として出されている。モスクワ世界陸上でも、調査研究を実施する。これまでは新規発生に重点が置かれてきたが、実際にはオーバーユースによる慢性障害が原因になっていることが多いため、大会前の慢性障害についても全選手からアンケート調査を行うこととした。さらに、このデータを用いて、疾病障害の予防ツール作成や教育を行っていくこととした。とくに、ジュニアアスリートやユースアスリートの障害予防については、FIFAが世界に広めている「11+」(eleven plus) のような様々な運動より構成されるウォームアップモジュールをIAAFとして広めることとした。

### 2. 大会参加前健康診断

#### Pre-Participation Medical Examination (PPME)

日本では心電図検査を含む健康診断を受けることは当然で、日本陸連強化選手はJISSで詳細な健康診断を受けている。しかし、世界的にみると健康診断を受診する選手は数少ない。競技中の選手の心肺停止がサッカー、自転車などであり、これの予防はスポーツ界全体の問題となっている。競技者の健康を確保するため、IAAFルール第50条では、加盟団体が国際競技会に

参加する選手に対してPPMEを実施するよう推奨している。

### 3. 競技者生物学的パスポート (ABP) 異常値の

#### 医学的取り扱い

ABPはドーピング防止目的で実施されるが、血液データより健康障害の存在が推定された場合には、競技者に通知している。通知基準として、1) Hb濃度 (男>19、女>17g/dl)、2) 血清フェリチン濃度 (男>700、女>500 μg/L)、3) HCG などである。2011テグ世界陸上で、血液検査を1951人に実施し、フェリチン>1000を示したのは35選手 (男17、女18) で、競技は長距離、競歩、マラソンに集中し、かつ特定国の選手に見られた。

### 4. TUE管理

最も問題になっているのが、ADHD (注意欠陥・多動性障害) に関するTUE審査である。WADA (世界ドーピング防止機構) ガイドラインが改訂されるたびに審査基準が緩和されているので、IAAFとしてより厳格な審査をすることを決めた。その1つとして、4年間の有効期限を1年間とし、毎年専門医より経過についての医療情報を提供してもらうこととした。

## ドーピング防止関連

### 1. 2012年統計

IFとして最も多くドーピング検査を実施しているのは、サッカーで、次いで陸上、自転車である。陸上は年間に約24000件を実施し、うち約15%はIAAF実施による検査である。2012年にIAAFが実施した競技会外検査は1305件 (IAAFのRTP(検査対象者登録リスト)競技者557人) で、RTP競技者1人平均としてOOCTを3回受けている。2012年のAAF(違反が疑われる分析報告)は291件で、ATF(非定型報告)は69件であった。AAF、ATFとして検出されたものの50%が蛋白同化薬、19%は興奮薬であった。AAF、ATFからのADRV(ドーピング防止規則違反)は133件であった。AAF、ATF以外のADRVは27件で、ABPが15件、それ以外(検査拒否、所持など)が12件であった。

### 2. 競技者生物学的パスポート (ABP)

IFとしてABPを実施しているのは、陸上、自転車、ボート、スキー、スケートの5競技である。IAAFは2012年に競技会前1178件、競技会外390件で、合計1568件のABP検査を実施した。競技者数は988人に上った。競技会外だけにしほると、対象競技者は約100人である。2012年までに3430競技者から6700血液検体を採取し、すでに16名がABP異常によるADRVとされた。

### 3. 2013年IAAFドーピング検査予定

2013モスクワ世界陸上に向けて、重要競技者にフォーカスをあてOOCTを実施する。モスクワでは2000検体の血液検査を予定し、その他の大会と合わせて2965件の血液検査を実施する。一方、尿検査はモスクワでの450件を始め、2355件を予定している。

日本陸連医事委員会が行っている競技者に対するメディカルサポートは、まだ十分ではないが、今回の会議内容から世界的に見たら稀有な成功例であると確信した。さらに、発展、継続が必要であり、この分野において世界に発信していく必要性を感じた。

# “日清食品カップ”第15回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会報告

普及育成委員会普及育成部長 渡部 誠

本大会は、1985年より開催している「日清食品カップ」全国小学生陸上競技交流大会の一環として、1999年より始まり15回目を迎えた。全国の小学生がクロスカントリーを通じて走ることの楽しさと正しい技能・トレーニングの習得及びよい友達づくりを目的とし、平成25年3月16日（土）・17日（日）の2日間に渡り開催した。

第1日目は、大阪府・池田市民会館（アゼリアホール）において、全国47都道府県代表チームと地元大阪の3チームを加えた50チーム400名の選手と、100名の指導者の参加により、開講式と研修会・監督会議を行った。

14時から開講式を行い、主催者を代表して尾縣貢専務理事の挨拶、後援をいただいている池田市・小南修身市長の歓迎の挨拶を頂き、開講式は終了した。

開講式後、監督会議は場所を2階のコンベンションルームに移して行った。選手と他の指導者は引き続き大ホールで研修会に参加した。

監督会議では主催者の挨拶の後、主管の大阪陸協・竹内章副専務理事から大会の運営についての説明があった。内容は、プログラムに記載されている監督・競技者注意事項にそって、コースの説明、スパイクシューズの使用禁止、ウォーミングアップ場の確認など、事故がなくスムーズな競技運営のために入念な説明が行われた。

研修会は、普及育成委員会普及育成部・井筒紫乃U12担当幹事と大畑好美委員の進行のもと、日清食品グループ陸上競技部より白水昭興監督、アテネオリンピックのマラソン代表である諏訪利成コーチ兼選手、ロンドンオリンピック5000m・10000m代表の佐藤悠基選手を招待した。監督・選手の小学生当時の話や指導・練習内容について触れながら進行し、参加小学生に対する図表と写真を交えながらクイズという形式で進め、解答後に詳細な説明を加えた。内容の一部・概要は以下の通りである。

## 1. 小学生の練習によるからだへの負担について

クイズ（1）：小学生が1日に走る距離は多くて何kmくらいがちょうどいいでしょうか？

- ①20km②15km③10km④5km

答え：④5km

理由：12歳頃の心臓の大きさは大人の60%であるため※解答において、③10kmに手を上げた参加小学生が多数おり練習量に対して見直すことの必要性を感じた。また、白水昭興監督のコメントとして、日清食品グループ陸上競技部では20km程度を走っているということであった。

クイズ（2）：毎日の練習で1000m×5本などのインターバル練習は、小学生にとってちょうどいいでしょうか？

- ①ちょうどいい②少なすぎる③多すぎる

答え：③多すぎる

理由：心臓や骨・筋肉への負担がとて大きいためまとめとして、スキヤモンの曲線を事例に挙げながら、神経型と一般型ではその発達過程が異なるなど、①すべての器官は同時に大きくならない②からだの器官の発達や速さで異なる③12歳頃は脚部の発育がもっとも大きい時期であり、弱く傷つきやすいので注意をする必要があるとの説明をした。

## 2. ジュニア選手の食事の基本について

クイズ（3）：長距離選手にとって大事な栄養は「炭水化物」という栄養素です。どのような食品を食べればよいでしょうか？

- ①「野菜」②「お肉」③「お魚」  
④「ごはん」「パン」「めん類」

答え：④エネルギーを作る役割があるため

クイズ（4）：クイズ（5）では、運動量に見合うエネルギーと各栄養素の大切さと栄養バランス及び「主食」「主菜」「副菜」「牛乳/乳製品」「果物」を含めた食事を食べることの必要性についての講義とクイズを行った。

## 3. 様々な運動をすることの大切さについて

クイズ（6）：現在、トップ選手の中で子供の頃に多かったのはどのタイプ？

- ①ゲームばかりしていた②走ることに専念していた③走る事も好きだけど、ほかのスポーツ種目もやっていた

答え：③ほかのスポーツもやっていた

諏訪利成選手と佐藤悠基選手の、子ども時代の経験談を含めながら進めた。両選手は、「小学生時代は水泳や、鬼ごっこなど外で遊ぶことが大好きであった」と、多様な運動経験の大切さを強調していた。

後半にはコーディネーション能力養成の事例として「ジャンケンゲーム」を行った。最後に「1500m男女の中学日本記録」のクイズ、日本記録の紹介を行い、研修会を終了した。講義だけの一方通行ではなく小学生選手を交えた有意義な研修会であった。

終了後は監督会議に出席していた監督も戻り、チームごとにまとまって、「インスタントラーメン発明記念館」に移動し、担当者の熱心な説明を聞くなど大変興味関心を持ちながら見学していた。



クロスカントリーリレーのスタート

第2日目は場所を万博記念公園内特設コースに移し、クロスカントリーリレー大会を行った。好天に恵まれ、大阪陸協の入念な準備と運営で、特に問題もなく実施できた。

開会式は、主催者を代表して尾縣貢専務理事の挨拶、協賛をいただいている安藤宏基日清食品ホールディングス株式会社代表取締役社長・CEOの挨拶、そして参加者を代表して長崎県・村松陸上東和クラブの山道勝太君による力強い宣誓があり、開講式を終了した。

11時に女子友好タイムトライアル、11時10分に男子友好タイムトライアルがスタートした。それぞれのレースに諏訪利成選手と佐藤悠基選手が参加して小学生と一緒に走ってくれた。

11時20分に第1走者が一斉にスタートし、スタート後に転倒した選手も見られたが元気に立ち上がり、レースを継続していた。第1区の千葉の船橋陸上クラブの笹野真愛さんが5分8秒の区間賞でトップに立ったが、その後2区以降は兵庫の北浜JRCがトップに立ち、3区の大西琉菜さんが5分1秒の区間賞をとり、第5区・第6区も順調にタスキを繋ぎ、30分22秒の好記録で2年連続の優勝を果たした。

今回のレースでは、最終的に3県が周回遅れになり、チームの選出にあたって予選会を実施している都道府県と抽選による都道府県の格差がみられた。

レース終了後、12時25分から表彰式を行い、入賞チームと区間最高記録賞の選手を表彰した。

表 区間賞

1区	2区	3区	4区	5区	6区
笹野真愛 船橋陸上クラブ (千葉)	松島 匠 おおたスポーツアカデミー (群馬)	大西琉菜 北浜 JRC (兵庫)	望月満帆 大國陸上クラブ (山梨)	石塚あかり KJR陸上クラブ (東京)	荒木幸平 岡崎 JAC (愛知)
5分08秒	4分37秒	5分01秒	4分46秒	5分17秒	4分50秒

<入賞チーム成績>

- 1位 北浜JRC
- 2位 岡崎JAC
- 3位 船橋陸上クラブ
- 4位 おおたスポーツアカデミー
- 5位 KJR陸上クラブ
- 6位 大國陸上クラブ
- 7位 SRKジュニアクラブ
- 8位 TOJ

<区間賞> (表参照)

後援・協賛の各団体と主管いただいた大阪陸上競技協会の皆様に心より感謝申し上げます。報告とする。なお、大会の全記録については日本陸連ホームページをご覧ください。



優勝した北浜JRC



# 国際陸連 (IAAF) 競歩委員会報告

強化委員会競歩部長 今村 文男 (IAAF競歩委員会委員)

2013年2月9日にIAAF本部のあるモナコでIAAF競歩委員会会議が開催された。

会議の冒頭にガブリエルIAAF事務総長からIAAFの諸活動の報告と2013年から2016年戦略プラン(Strategy Plan)の説明があった。そして、競歩委員会に対しても新しいアイデアや技術、考え方を取り入れながら競歩の変革に取り組んで欲しいと期待を寄せていた。また、会議では、各報告とともに複数の議題について審議した。以下に示すのは今会議の主な議題および協議事項と報告事項である。

日時：2013年2月9日(土) 9:00～17:00

場所：モナコ公園 モナコ

**議題：**開会宣言(マウリシオ・ダミラノ委員長)／IAAFの活動および最新情報について(ガブリエルIAAF事務総長)／前回会議の議事録承認(2012年6月10日ラコルーニャ)／ロスオブコンタクト検知システムに関して／競歩規則第230条について／Pit Lane Rule(ピットレーンルール)について／国際競歩審判員について／世界選手権およびオリンピックにおける国際競歩審判員指名基準(2013年／2014年シリーズ)／エリア審判員パネルについて(更新情報)／2013年競歩チャレンジについて／男女混合レースについて／2014年英連邦大会での競歩種目／エリア状況報告(競歩コースに関する提案)／次回会議について

## 【ロスオブコンタクト検知システムに関して】

2001年に初期のものがカナダより提案。その後、2012年に改良版が提案された。競歩経験者のAntonio Amigo氏(スペイン)の開発システムで、2012年11月に発表している。今会議においてAntonio Amigo氏から開発に至った経緯、現状と実用性の見通しを説明して頂いた。

**背景：**ハイレベルなレースではロスオブコンタクトが頻繁に発生しているが、競歩審判員が視認・判定できていないのが現状。電子システムなどのシステムの導入が待たれる。また、2001年にカナダのMr. Dennis Furlongがセンサーシューズを開発。センサーがソールに埋め込まれ、ロスオブコンタクトが発生するとアラームが鳴る仕組みでIAAFでもテストを行った。しかし、シューズの重量や実際の競技会で用いるにはエラーが多かったため実用に至らなかった。

新たなシステム開発にあたって求められる事項は以下：

- ・ 競技者の着用するシューズは市販のものであり、履きやすいものを競技者自身が選択できること。
- ・ また、シューズに装着する部品の重量は、競技者のパフォーマンスに影響するため最低限の重量であること。
- ・ 競技会での運用にあたっては最大限に正確であること。
- ・ 防水性、防汗性を備えていること。
- ・ 競技者に対して、違反の数、あるいはロスオブコンタクトの発生数を簡潔に伝達可能なこと。
- ・ 装着が競技者にとって影響しないものであること。

以上の条件を備えた競技者用の装着システムはセンサー内蔵のインソールと腕時計状のコントロールユニットを使用し、ロスオブコンタクトの判定に電子システムを取り入れようというものである。委員会としては、ダミラノ委員長を中心にワーキンググループを作成し実用性について検討することとなった。

## 【競歩規則第230条について】

・230条に一部修正

技術委員会より競歩規則1条1項(a)、(b)、(c)及び(f)に属する競技会は日の出から日没までの間とすると定めた競歩規則230条第8項(b)は医事と安全としてふさわしくないと提案があったが、委員会としては(b)を競技会運営として第13項に移動させる。

## 【ピットレーンルールについて】

背景：2011年の委員会でピットレーンルールが議論され、理事会で

テストレースの実施が承認された。

ここまでの経緯：オーストラリアとイタリアでテストを実施。観客と報道側は興味を示したが、コーチには不評であった。競技者側の反応はまちまちだが概ね導入には反対。

**国別の反応は以下の通り：**

テスト未実施ながら導入に反対の立場

北欧(スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー)・ロシア

以下は建設的ながら批判的

メキシコ：別のシステムを提案

スペイン：夏にテストを行う予定

イギリス：幼少年に対してピットレーンと類似したルールを適用している

現時点ではテストレースの実施は2レースしかなく、委員会としてはいくつかの国がテストを実施することなく否定的な意見を表明していることに対して遺憾の意を表明した。

また、同時に競技の公平性を最大限に高めてゆくことは委員会として重要であり、そのための審判育成および研修会の実施、さらには機器開発を行っていく。

委員会としての提案は以下

- ・ピットレーンルールは委員長を代表とし、作業部会を作りガイドライン作成等をしながらかテストを実施する。
- ・テストレースの企画。
- ・テストレース間の比較に資するような報告項目の設定。
- ・さらに、必要に応じたテストガイドラインの見直し。
- ・2013年中の委員会への報告。
- ・ロスオブコンタクトシステム検知システムの開発を進める。
- ・IAAF事務局に対して既存のバイオメカニクス研究機関への呼びかけを進めてもらう。
- ・必要な資金調達を行う。

以上の提案が受理された場合には、テストガイドラインと必要事項が委員会より配信される。

## 【国際競歩審判員(IRWJ)について】

・委嘱基準

- 2009年のIRWJセミナーにおける判定基準の統一のため提案事項
- ・主要国際大会におけるIRWJの判定内容をより詳しく精査し、評価する。
- ・期ごとの各大会、とりわけ世界選手権とオリンピックのように判定にプレッシャーがかかり、また判定の統一性が重要な大会での委嘱基準を評価に基づいて見直す。

2011年、2012年に開催された競技会の主任報告では、経験が少ない審判員の判定が全体の傾向を左右していたとの報告があった。

2009年の提案に基づいて委嘱を行うことを委員会で確認し、2012年11月のIAAF理事会へ提案されることになっていた2013年/2014年の審判委嘱リストを2012年ロンドンオリンピックの後に委員会内部の作業部会で評価を行った。

委員会としての提案は以下。

オリンピック・世界選手権では全世界6地域は必要ないが最低限3地域から審判が委嘱されるべきというルールや、期中の委嘱回数等のルールにとらわれずパネル内で最も経験のある審判を委嘱すべきである。

・ARWJ/IRWJの育成評価システムについて

委員会において、現行のLevel2からLevel3への昇格システムとその要件(年齢、経験、健康診断)などを2014年の再評価に向け、制度全体とともに見直している。

委員会としての提案は以下。

- ・審判育成手法を以下によって改善する。
- ・仮想教室とオンライン研修。

- ・ コーチあるいはトップ競技者によるLevel2研修への参加機会の可能性を検討する。
- ・ インターネットの枠外から審判標準スタイルにアクセスできる機会を委員会でご設定する。

#### 【IAAF 競歩チャレンジについて】

##### ・ 2012年について

盛況だったが予想よりも参加者数が少なかった。とりわけファイナルについては、年間得点・賞金のための参加がほとんどだった。2011年の参加者アンケートでは選手側は現在の状況に満足している様子。今後の対応として、参加者を増やすにはファイナル開催地の開拓が必要といえる。

##### ・ 2013年シリーズについて

2013年日程には6大陸で行われているエリア選手権もカテゴリーC競技会と位置づけポイントの有効にした。2013年ファイナルについては、世界選手権（モスクワ）とした。

##### ・ レギュレーションについて

現在のレギュレーションではチャレンジのポイント認定に必要な競技者数の要件を定めているが、トップ競技者が招待を全て受けるわけではないので、この要件を満たすのが難しくなっている。特にヨーロッパエリアの競技会が増加したため参加選手の国籍に偏りが出ている。委員会としては2013年からこの要件を撤廃して、各チャレンジでポイントを全て付与できるよう修正することを提案することとなった。

##### ・ メディアについて

競歩チャレンジのレースがテレビ中継されることはめったにないが、2012年のチワワではストリーミング中継を行った。委員会ではこういった方法やツイッターのようなSNSの利用を是非広めたい。

#### 【男女混合レースについて】

現在、男女混合レースでの記録は主要競技会への参加資格記録として認められている。世界記録については、競技記録261条によって男女混合レースでの記録を認めおらず世界最高記録として扱っている。競歩種目では多くの競技会で男女種目が同時に行われている現状を踏まえると様々な問題を引き起こす。すなわち、時差スター

ト等で男女を分けたとしても競歩種目は周回コースで実施されているため、この261条の要件をクリアしようとするとう公道使用の時間が長くなってしまおうという問題をはらんでいる。

委員会として以下の提案を行い2012年8月のカウンシル会議（ロンドン）で承認を得た。競技規則261条の注意書きの冒頭に「競歩種目を除き」の文言を加えることとなった。

最後に委員会の席上、各委員から次の報告と提案があった。

#### 【2014年英連邦大会（コモンスウェルスゲームズ）競歩種目について】

2014年グラスゴー大会ではロード種目ではなく、トラック種目の男女10000m競歩として検討中。現在、競歩種目の参加者、参加国が少なくロード開催時の支出、公道閉鎖時間等の問題からロード種目実施の理由づけが困難なため。

#### 【一般市民向け競技会について】

市民レースを巻き込んでゆくのは今後に向けて重要。2013年の委員会会議では個々のチャレンジレースにどのように市民レースを組み込んでゆかかを議論する。ワールドカップ競歩においても同様である。

#### 【ルール改正に関する提案事項】

競歩委員会での審議：競技規則230.10 (a) 周回コースの距離について、現在、主要競技会（IAAF主催/オリンピック）では最低2kmとされているが、エリア競技会では1kmも使われているため、その提案。モスクワのサイトビジットでは1kmコースが提案されたが、現行ルールでは不可能であるため今後提案していく。最後に、IAAF競歩チャレンジについて現行の日程ではヨーロッパに競技会が集中し、レギュレーションに問題が生じてきているため各エリアにおける競技会の日程やポイント付与の条件を見直すこととなった。3月に石川県能美市で行っているアジア選手権競歩もIAAF競歩チャレンジとしてエリア競技会のひとつに加わったが、参加国が1名のみと制限されているためポイント付与に不公平感が生まれている。この点はアジアエリアだけの問題と捉えず競歩チャレンジのあり方を見直す意味でも今後の検討課題の一つとして委員会で問題提起していきたい。

# 国際陸連 (IAAF) 技術委員会報告

事務局 事業部 専任課長 関 幸生 (IAAF 技術委員会委員)

2013年2月15日～16日、モナコのIAAF本部でIAAF技術委員会会議が開催された。

2007年のIAAF総会で委員に選出され4年の任期最後の会議であった。

本年は、8月にIAAF総会がモスクワで開催されるが、IAAF憲章では、選挙が主目的の総会と規則修正が主目的の総会を2年ごとに交互に実施することになっており、本年は規則修正が主目的であり、加盟団体（各国陸連）から事前に寄せられた提案の検討に今回は、多くの時間を割くことになった。

技術委員会は、「競技規則に関するすべての問題を取り扱う」とされ、委員長と16人の委員をもって構成されている。加盟団体から提出された規則の修正は、技術委員会が内容を検討し、採用に値するか（+）否か（-）の別を明示して理事会に提案、承認されたものが、総会で提案される流れとなっている。技術委員会で（-）評価を受けた提案は、総会では、議論の対象にもならないので、規則の修正においては、技術委員会内でいかに理解を得るかが重要となる。

今年は、12の加盟団体から74件の提案の審議と、委員会が継続して検討してきた規則修正等30件についての取りまとめ、規則運用の解釈についての議論等をおこなった。後述するが日本からも2件の提案がなされたが、委員会としては（-）とされた。

規則に関するといってもその内容は多岐に及ぶため、4つの分科会を設け、事前検討した結果を全体会議で審議するという会議の進

め方をとっている。

全体会議で委員の賛成を得た案件については、4月に開催されるカウンシル会議（理事会）に提案され、承認されれば重要事項を除いて、8月の総会で報告され規則修正へと至る。

重要事項については、総会で審議採択される。

4つの分科会は、“競技規則”、“競技場”、“テクノロジー”、“器具”であり、私は器具分科会長に指名されている。

#### ◆主要議題

部会ごとの主要議題はつぎのとおり。

##### 競技規則

- ・ 加盟団体からの規則修正提案検討
- ・ ルール適用にあたっての解釈について
- ・ 選手コミッションからの提案検討

##### 競技場

- ・ 2012年に承認されたトラック舗装材数及びクラス1、2競技場数報告
- ・ IAAF競技場施設マニュアル改訂
- ・ 障害物競走の障害物設置位置の柔軟化
- ・ 投てき可能な人工芝承認に向けてのテスト結果報告  
※詳細は後述
- ・ 室内競技場の半径
- ・ トラック舗装材の検査機関となるための要件
- ・ スウェーデンリレーのブレイクライン位置

※ 英語では、メドレーリレーと表記されるが、トラックの半径が異なるために、オープンになる地点が、一定ではないことが悩みである。規則で、柔軟な対応ができるよう必須を意味する「Shall」ではなく弱い意味の「Should」にするよう本連盟施設用器具委員会からの意向を受けて提案している。一方で、こうした問題を解消するために、走順を、100m-300m-200m-400mにすればいいという提案がされたが、「スウェーデンリレー」として種目を実施している国の委員が大反発。北欧、フランス、日本から「この種目の歴史を理解していない」との抗議を受けて「メドレーリレーの走る距離の順番は変更してよい」という弱い表現に改められた。

・ 室内競技での砲丸投落下位置

#### テクノロジー

- ・ キャリブレーションハンドブック
- ・ 不正スタート発見装置認証制度
- ・ スイス製新型不正スタート発見装置
- ・ 写真判定装置の新製品
- ・ ビデオ距離計測装置 (VDM) 検証
- ・ IAAF サプライヤーが開発した各種新システム
- ・ トランスポンダーシステムの誤差

#### 用器具

- ・ 2012年に承認された用器具数報告
  - ・ 室内用砲丸にユース及びジュニア規格を追加
  - ・ 棒高跳ボックスの安全性の向上
  - ・ ハンマーハンドルの長さ規定の撤廃
- これ以外につぎの議題が検討された。
- ・ ITO試験の実施計画
  - ・ レフェリーブック最新版 (2012年版) の報告

本年は、規則改正提案を含め各種資料が、300ページ以上に及び、会議日程が2日間しかないため、朝から夜まで、長時間の審議が必要となった。

#### ◆日本からの規則改正提案

委員会が審議検討された各種提案内容については、最終的には8月の総会で正式決定されるので、来年2月に開催予定の本連盟競技運営責任者会議での伝達までお待ちいただくことになるが、今回、検討された計104件には、日本からのつぎの提案2件も含まれていた。本連盟競技運営委員会からの提案を受けて提出されたものである。

1. 距離の跳躍種目 (走幅跳と三段跳) で着用するナンバーは1枚でよい
2. 直線のレーンで実施されるハードル種目の次ラウンドのレーン決めは、2、4、6、8レーンを上位者、1、3、5、7レーンを下位者とする

前者については、背面につけたナンバーの痕跡が、審判員の判定の妨げになっていることから、数年にわたって、日本が主張している案件であり、国内ではすでに適用されているが、IAAFの規則に明記して世界共通の理解としようという働きかけであった。しかし、審議の冒頭にIAAF事務局から、マーケティング委員会はこれまで通り前後2枚の着用を希望するとの発言があったこともあり、北欧を中心に複数の委員から賛同の声があがったものの、委員会内での投票の結果、却下となった。

後者は、国内外のハードル競走で、上位選手が中央の4つのレーンに固まることによる接触事例が頻発していることからの問題の意味合いもあった。大多数の委員から「理解できるが、実施は困難である」との見解が寄せられ却下となった。

このほか、昨年の委員会以降、規則の運用や解釈について、複数の質問や提案を提示してきたが、今回の会議の場で、議論がなされた指針や解釈が示された。つぎの2点は特に関心が高かった。

日本の陸上競技雑誌に掲載された海外の主要マラソンでコーチが大会から支給されたビブを着用して自転車での選手を走っている写真について、競技運営委員会審判部からの要請により見解を求めたが、特定のコーチに大会主催者が便宜を図り伴走を認める行為は、

規則上許さず、該当のレースに対し、改善を指示することになるとの回答があった。

ロンドンオリンピックの4×100mリレーで、規則で認められたマーカーは5cm×40cmで1か所のみであるのに、あるチームが明らかにサイズオーバーのマーカーをしていたことについて、提供されたそのシーンの写真を提示し見解を求めた。あわせて複数のマーク使用が見過ごされている事例が少なくないことも紹介された。規則には、どの部署の審判員がこのチェックをすべきかの明確な記述がなかったことも問題であったとし、今後、監察員の任務として追記がなされることとなった。

#### ◆オリンピックで誠実に競技しなかったとみなされた選手

昨年のロンドンオリンピックで、ニュースでも報道された事例についてルールに照らし検討がおこなわれた。800mと1500mの掛け持ち出場していた選手が、1500mの予選通過後に実施された800mで途中棄権したのは、誠実に競技する義務を定めた142条4(b)違反であるとして、いったん失格となったものの、その後提出された診断書が認められ、失格処分が取り消され、翌日に出場した1500mで優勝したというケースである。掛け持ち出場選手の出場意思確認の方法やタイミングも含めて、こうした事例が今後、生じないよう相応しいルール内容についての検討が継続されることになった。

#### ◆IAAF承認競技場と陸連公認競技場

毎年、時報で報告しているが、IAAFは、競技場の承認システム推進を積極的に進めている。クラス1と2という2つの種別に分かれているが、この制度を担当するのも技術委員会である。3月1日現在、世界にクラス1は91か所 (1年前は87か所)、クラス2は416か所 (同364か所) と年々増加している。日本にあるのはクラス1が、神戸、大阪、新潟の3競技場、クラス2が、長野、川崎、東京の味の素の3競技場であり、さらに国立競技場と和歌山がクラス2として新たに承認を得る予定である。

国内でもこの認証システムの理解が進んできているように感じる。IAAFやアジア陸連の大会を開催するには承認は必須であり、世界記録はこれらの競技場で達成されるか、その後、同じ基準に添って計測されなければ認められない。IAAFは、世界のどこにいても、すべての選手が同じ条件下で競技し記録が残せることを目的として、承認競技場の世界的普及を推し進めている。

日本には、歴史ある競技場の公認制度が存在するが、担当する施設用器具委員会には、IAAFの制度にも柔軟に対応いただいている。

#### ◆審判、競技、用器具関連のIAAF出版物

昨年の報告でも紹介したが、技術委員会は競技に関する各種の出版物を編集しており、IAAFサイトからダウンロードも可能である。技術委員会では、ルールブックを簡潔にし、「適正な」ページ数にしようとしている。その手段が、ルールブックを補足する「施設マニュアル」と「レフェリーブック」の発行であり、ルールブックの記載内容をこれら2冊に移す動きがあることを理解しておく必要がある。すでにIAAF規則には「施設マニュアルを参照とすること」という表現が複数掲載されているが、2012年には、「レフェリーブックには、ルールの解釈や実践内容が記されている」という注釈が追記され、両方の出版物の位置づけが高まってきている感がある。

このほか、「競歩審判法」、「スターターガイドライン」、「国際写真判定員ガイドライン」といった解説も発行されており、国際的に推奨される基準が網羅されている。日本の対応と異なる点もあるので、IAAFのやり方を理解する必要があると感じる。

#### ◆投てき可能な人工芝の開発

投てき実施可能な人工芝は、日本の製造会社が初めて開発し、ここ数年、技術委員会の席上で紹介し続けてきた。国際サッカー連盟がピッチへの人工芝導入に積極的なことから、IAAFとしても投てき競技も実施可能な人工芝の開発と普及が急務になっており、また各国からの問い合わせも多い案件である。IAAFは、イギリスにある検査機関と協力し、IAAF公認制度を確立するための検証作業を続けてきた。検査機関によると、現状で、投てき実施可能な人工芝の開発販売に成功しているのは、日本製の脇を走っているのが、それらの質は極めて高く、サッカーとの共存も可能であるとの報告がIAAFに提出された。今後、公認条件の策定などの作業が継続される。



# 大会観戦ガイド

## IAAFワールドチャレンジミーティングス第3戦 セイコーゴールデングランプリ陸上2013東京 兼 第14回世界陸上競技選手権大会(2013/モスクワ) 代表選手選考競技会

▼日時：5月5日(日) 競技開始時間 12:30予定

▼会場：国立競技場

東京都新宿区霞ヶ丘町10番2号 TEL.03-3403-1151

▼種目：【ワールドチャレンジミーティングス】〈男子9種目〉「100m」、「200m」、「800m」、「110mH」、「400mH」、「3000mSC」、「棒高跳」、「走幅跳」、「やり投」。〈女子7種目〉「100m」、「5000m」、「100mH」、「走高跳」、「走幅跳」、「砲丸投」、「やり投」【ハンマースローチャレンジ】〈男子1種目〉「ハンマー投」

▼テレビ放映予定：TBS系で14:00から15:24(TBS系列28局)で生放送予定

▼公式HP：<http://goldengrandprix-japan.com/>

▼チケット：好評発売中

### 〈10大特典のついたゴールデンシート販売情報〉

チケット料金：お1人様 10,000円

席数：先着300席限定

申込み方法：大会公式ホームページよりお申込みください。

ホームページURL：<http://goldengrandprix-japan.com>

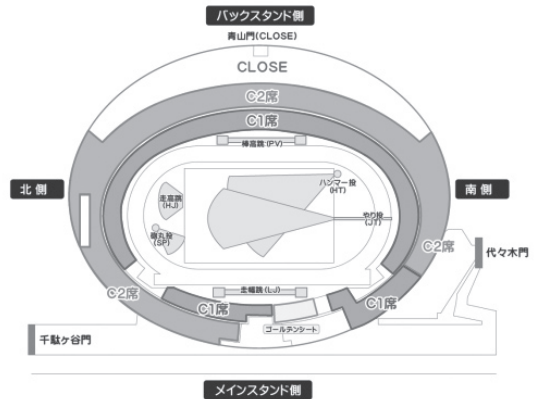
問い合わせ先：(株)デポルテ

TEL.03-6277-5310(平日10:00~18:00)

### 〈一般チケット販売情報〉

販売区分	並び-	区分	金額	備考
前売券	C1	一般	3,000	プログラム付
		小中高生	2,000	
	C1	一般	3,000	
		小中高生	2,000	
当日券	C1	シルバー	1,500	60歳以上 証明書提示で半額
		障害者一般	1,500	証明書提示で半額
	C1	障害者小中高生	1,000	付添1名まで同料金
		一般	1,000	
	C2	小中高生	500	
		シルバー	500	60歳以上 証明書提示で半額
	C2	障害者一般	500	証明書提示で半額
		障害者小中高生	250	付添1名まで同料金
団体割 (前売)	C1	一般	25,000	10枚単位での販売 プログラムは付きません
		小中高生	15,000	
	C2	一般	9,000	
		小中高生	4,500	10枚単位での販売

\*小学生未満は無料 \*C1はC2へ移動可能 \*前売券はC1のみの販売になります。



### 前売チケット販売概要

■チケットぴあ Pコード：823-760 / インターネット購入：<http://t.pia.jp/t/> (24時間購入可能) / 電話予約：0570-02-9999 (Pコード予約) ※チケットの購入にあたってはPコードが必要になります。/ 店頭販売・全国のぴあ店舗 ※営業時間は店舗によっては異なる場合がございます。\*所在地・営業時間は<http://t.pia.jp/guide/retail.html>よりご確認ください。/ セブンイレブン(24時間購入可能) ※店頭のマルチコピー機よりお買い求め下さい。/ サークルK・サンクス (7:00~23:00) ※店頭のカルワザステーションよりお買い求め下さい。

■ローソン Lコード：37307 / インターネット購入：<http://l-tike.com/> (24時間購入可能) / 電話予約：0570-084-003 (24時間受付可能) ※Lコードが必要になります。/ 店頭販売：全国のローソン (24時間購入可能) ※店頭のLoppiよりお買い求め下さい。

■e+ (イープラス) インターネット購入：<http://eplus.jp/> (24時間購入可能) / 店頭販売：全国のファミリーマート (24時間購入可能) ※店頭のファミポートからお買い求め下さい。\*第1・第3木曜日の1:25AM~8:00AMはシステムメンテナンスの為、受付不可。

■CNプレイガイド インターネット購入：<http://www.cnplayguide.com/> (6:00~翌1:00) / 電話予約：0570-08-9999 (10:00~18:00) ※オペレータ対応 / 店頭販売：CNステーション ※営業時間は店舗によって異なる場合がございます。\*所在地・営業時間は[http://www.cnplayguide.com/info/cn/\\_station.htm](http://www.cnplayguide.com/info/cn/_station.htm)よりご連絡下さい。/ セブンイレブン (24時間購入可能) ※店頭マルチコピー機のセブンチケットの項目からお買い求め下さい。/ 全国のファミリーマート (24時間購入可能) ※店頭のファミポートからお買い求め下さい。

チケットに関するお問い合わせ(ゴールデンシートを除く)  
03-5974-1192(土日祝日を除く10:00~18:00)

## JAAF 富山陸上競技協会

TOYAMA

〒930-0887富山市五福5区1942 アオイスポーツハウス内  
TEL : 076-442-1235 FAX : 076-442-1235  
<http://homepage2.nifty.com/T-R-K/index.html>

☆平成25年度の富山陸上競技協会主催の行事日程のご案内  
全国大会の日程の都合で、国民体育大会予選会等が以下のように変更になりました。

- ①第55回富山県陸上競技選手権 5月3、4日(金・土)  
県総合陸上競技場
- ②第66回県民体育大会一部 7月20、21(土・日) 県総合陸上競技場
- ③第18回富山カップ陸上競技大会 8月10、11日(土・日)  
県総合陸上競技場

※今年度は、北信越高校陸上競技対校選手権大会及び北信越高校駅伝競走大会が富山県にて開催されます。(文責:広報部長 石坂慎司)

## JAAF 一般財団法人静岡陸上競技協会

SHIZUOKA

〒420-0839静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野寿ビル2F  
TEL : 054-253-9801 FAX : 054-253-9801  
<http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t&f/>

平成25・26年度県陸協役員紹介をします。

会長	和田隆保	副会長	遠藤 榮	河合久光	池田 毅
理事長	鳥井啓市	副理事長	望月鉦一	大塩正則	森下哲治
監事	林 昭仙	石上雅宏	外畑山雅章		
事務局長	大原一夫				
総務委員長	石野吟策	競技委員長	永田勝久		
審判委員長	井出幸夫	強化委員長	杉井將彦		
普及委員長	豊田博幸	情報システム委員長	三枝宣男		
施設委員長	久保田金也	記録委員長	赤堀順一		
広報委員長	橋本美智夫	スポーツ科学委員長	齊藤史門		

(文責:広報報道委員長 橋本美智夫)

## JAAF 一般財団法人石川陸上競技協会

ISHIKAWA

〒920-1397能美市来丸町ワ50 物見山陸上競技場2階  
TEL : 0761-51-3222 FAX : 0761-51-3222  
<http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm>

北陸に春を告げる「全日本競歩能美大会」が、能美市特設コースで3月10日に開催された。

モスクワで開催される第14回世界陸上競技選手権の男女20kmの選手選考競技会に位置づけられており白熱したレースが展開された。

地元の大声援を受けた鈴木雄介選手は、日本記録を更新しモスクワでの活躍に期待が分かる。

同選手は小学生時代より陸上競技に親しみ、中学生時代に地元の競歩コーチに出会い、その健脚に磨きをかけている。ジュニアの育成がいかに重要かを見て取れる。(文責:副理事長 山本徹)

## JAAF 一般財団法人愛知陸上競技協会

AICHI

〒460-0012名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル7F  
TEL : 052-249-4363 FAX : 052-249-4366  
<http://www.aichi-rk.jp/>

名古屋ウィメンズマラソン2013は、日本選手が終盤までトップを競う好レースを展開し、モスクワ世界選手権の標準記録を突破した木崎真子選手が優勝し代表に内定した。3位の野口みずき選手も標準記録には僅かに及ばなかったが有力候補に躍り出た。この大会には女性マラソンランナー14,554人が出走。世界最大の女性マラソンとして「ギネス世界記録」を更新した。7時間の制限時間内に97.0%の14,124人が完走し、憧れのフィニッシャー記念ペンダント、Tシャツ等を獲得した。全国47都道府県と海外からも参加があった。

今年、愛知で開催の全国大会は、8月に全日本中学校陸上競技選手権大会、10月には日本ジュニア選手権・日本ユース選手権が4年目の開催となる。

## JAAF 一般財団法人福井陸上競技協会

FUKUI

〒910-0017福井市文京3-11-8  
TEL : 0776-25-0590 FAX : 0776-25-0591  
<http://www4.fctv.ne.jp/rikujyjo/>

今年の福井県の有望選手を見てみたい。一般では、800mの牧野康博選手(ユティック)が準頂。日本選手権を経て国際大会に出場したい。他に走高跳の西村達哉選手、100mの窪田望都選手、110mHの村尾裕紀選手(全てユティック)、女子の100mHの野村有香選手(北海道ハイテクAC)、100mHの清水浩実選手(平成国際大AC)らは、日本選手権などで上位進出や記録を狙いたい。大学では、駅伝で活躍した窪田忍選手(駒澤大)、今春進学した3000m障害物の石田安学選手(東海大)、100mHの上田美鈴選手(青学大)、三段跳の田邊章乃選手(福岡大)、棒高跳の宮川海峰選手(武庫川女子大)らの活躍を期待したい。

## JAAF 岐阜陸上競技協会

GIFU

〒502-0841岐阜市学園町3-49 仁科ハイツA102  
TEL : 058-294-6494 FAX : 058-294-6491  
<http://gold.jaic.org/gifu/>

国体も終わり25年度は大きな大会の開催はありません。法人化に向けての作業が急ピッチで進み、3月30日の総会で新年度の役員改選が行われました。会長に田口利正、副会長に奥田健石、堀次郎、小倉新司、理事長に黄倉寿雄を選出、理事も若返りを図り、総数は23名、4月早々に一般財団法人の申請をすることになっています。また、今年の東京国体は競技種目も岐阜と同じです。昨年度の勢いを一過性に終わらせたくないと、今年も上位入賞を目指します。幸い中学生が久々に好記録を出していますので、少年Bも期待がもてそうです。5月に開催される「第3回 岐阜清流ハーフマラソン」は、JAAFのブロンズラベルを取得しました。参加者も募集開始後1週間で定員に達し、準備は順調です。(文責:顧問 山田展也)

## JAAF 一般財団法人長野陸上競技協会

NAGANO

〒386-0151上田市芳田1656-1 杉崎憲雄様方  
TEL : 0268-35-2132 FAX : 0268-35-2132  
<http://nagano-rk.com/>

平成24年2月に法人登記を行い、一般財団法人として初めての1年間が経過した。2月に理事会・評議員会を開催し、25年度の役員体制、競技会日程などが審議され承認された。特に、医事部は総務委員会に属しており、医師である医事部長1名であったが、組織として充実が望まれ、トレーナーなどを組織化して普及強化部とより密に連携を図ることができる体制にした。

また、長野市での開催が2回目となる第87回日本選手権・日本ジュニア選手権混成競技が、6月1・2日に開催される。14名の委員からなる実行委員会を組織して、この大会に向けて既に3回の実行委員会を行い、96回大会の反省点を踏まえ、準備を進めている。

3月23日には陸連より本田陽混成部長と中京大学の選手をお迎えして、小中学生向けに普及イベントとして講習会及び競技会を開催した。

## JAAF 三重陸上競技協会

MIE

〒516-0023伊勢市宇治館町510 三重県営総合競技場陸上競技場内  
TEL : 0596-22-8890 FAX : 0596-22-8890  
<http://www.mierk.jp/menu/index.htm>

3月の総会では役員改選が行われ、豊田利一会長、松澤二一理事長のもと新体制がスタートした。また、日本陸連副会長の澤木啓祐氏を招いて講演会を開催した。

世界クロスカントリーの日本代表に、全国高校駅伝で三重県最高の3位入賞の伊賀白鳳高校から1区区間賞の西山雄介選手、デンソーから石橋麻衣選手が選出された。また、名古屋ウィメンズマラソンでは、アテネオリンピック金メダルの野口みずき選手(シスメックス)が好記録で3位に入賞した。3選手には国際大会での活躍を期待したい。

シーズン開幕に向け3月には小中高の練習会を開催した。平成30年の高校総体、33年の三重国体に向け、さらなる選手の発掘と育成に努めている。(文責:広報部長 南部朋)

# JAAF 一般財団法人滋賀陸上競技協会

SHIGA

〒520-3251 湖南市朝国607番地  
TEL: 0748-72-2056 FAX: 0748-72-2056  
http://www.biwako.ne.jp/srkshiga/

平成25・26年度一般財団法人滋賀陸上競技協会役員は下記の通りです。  
代表理事(会長) 奥村展三(再) 専務理事 坂 一郎(再)  
副会長 東 芳生(再) 常務理事 小寺善正(新)  
副会長 井上彌彦(再) 常務理事 馬場 豊(新)  
副会長 野村昌弘(新) 副会長 竹内茂朗(新)  
任期は平成25年4月1日～平成27年3月31日

# JAAF 一般財団法人奈良陸上競技協会

NARA

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号  
TEL: 0742-27-2312 FAX: 0742-27-2312  
http://www.narariku.com/

当協会もお陰をもちまして、財団設立1年を迎えることができました。さて、今年は理事改選の年度となっており、新理事が決まりました。

会 長 森岡 正宏 副会長 今井 邦佳 上田 忠和

専務理事 中窪 章二

理 事 吉川元洋 中井 光 土谷宗伯 山岡道弘  
池谷隆之 米村雅幸 仲子 宏 松井紀之  
葛本義人 北谷信男 堺 隆司 梶本吉博  
松村佳子 泉井純子 安達昌広

森岡会長の下、理事一丸となり陸上競技の普及および組織強化に精進いたしますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(文責:事務局長 山岡道弘)

# JAAF 一般財団法人京都陸上競技協会

KYOTO

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番地2  
TEL: 075-322-5500 FAX: 075-322-5501  
http://www.krk26.jp/

3月10日に「京都マラソン2013」が開催されました。この大会は「東日本大震災復興支援」「京都・日本の活性化」をメインコンセプトとしており、今回で2回目となります。午前8時30分に西京極陸上競技場をスタートし、15,070名のランナーが都大路を駆け抜けました。嵐山をはじめとする京都の観光スポットをコース沿いに眺めながら、14,000名余りのランナーが6時間の制限時間内に平安神宮でフィニッシュしました。男子の優勝タイムは2時間20分30秒と、昨年の記録を6分近く更新しました。当日は小雨の降る肌寒い天候でしたが、沿道にも多くの応援者が連なり、京都の町全体がマラソンを楽しんでいるかのような様子でした。(文責:広報部長 相模浩史)

# JAAF 一般財団法人和歌山陸上競技協会

WAKAYAMA

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内  
TEL: 073-444-3662 FAX: 073-444-3662

和歌山県は、2015年の全国インターハイと国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の成功をめぐし、多くの方に陸上競技を楽しんでいただくとともに愛してもらえるよう準備を進めています。メイン会場となる紀三井寺公園陸上競技場の改修と周辺施設の整備が進み、今年4月、新たな競技場で日本グランプリシリーズ(日本選抜陸上和歌山)を実施します。温暖な和歌山の地に世界記録が公認されるクラス2の競技場完成に伴い好記録がでるような環境整備が整いました。これまでも、競歩大会やハンマー投競技会を実施するなど和歌山の地を生かした取り組みを行い本県だけでなく他府県からの参加者も増えてまいりました。さらに本年度からナイター記録会も開催できることとなり、今まで以上に参加選手がより競技に集中でき、競技を楽しめるような競技運営に努めてまいります。(文責:競技部長 山下育作)

# JAAF 一般財団法人大阪陸上競技協会

OSAKA

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 大阪市長居陸上競技場内  
TEL: 06-6697-8899 FAX: 06-6697-8766  
http://www.oaaa.jp/

1月27日午後2時34分21秒、大阪国際女子マラソンのフィニッシュ地点で、福土加代子選手(ワコール)の笑顔がやっとはげました。捲土重来3度目の大阪でリベンジを達成してくれました。24分が切れずモスクワの即時内定とはなりませんでしたが、長距離のトップ選手が花道からマラソンの舞台へせり上がりました。翌週の日本ジュニア室内陸上競技大会では、オープンの棒高跳で山本聖途選手(中京大)が5m71cmの室内日本新をはじめ、ジュニア男女で大会新3種目大会タイ2種目とジュニア世代の充実ぶりが大いに注目されました。そして法人理事の任期末である6月を控え理事改選が行われ、新たなメンバーが審議委員会から選出されました。協会の次世代をになうべく大いに若返りが図られ、6月から順調にスタートできるよう機構の検討や新たな発案の準備に着手しています。(文責:専務理事 栗師寺茂夫)

# JAAF 一般財団法人鳥取陸上競技協会

TOTTORI

〒680-0944 鳥取市布勢146-1 コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(第2研修室)  
TEL: 0857-28-6540 FAX: 0857-28-6540 http://www.hal.ne.jp/trk/

3月17日の「鳥取マラソン」には、約2500名の参加者があり、無事終了することができました。この大会を最後に平成24年度の事業も終了しました。

法人化に移行し、新たな「定款」のもとに新しい組織編成で大会運営を実施してきましたが、様々な課題が出てきました。正確に状況判断し、柔軟に対応することで何とか乗り切ることができました。さらに「定款」や「各種規程」内容の検討や修正をしながら次年度充実した組織運営ができるよう努力していきたいと思えます。

普及・強化事業も徐々に成果が現れるようになっていますが、競技人口の減少はもとより、審判員の高齢化等で大会運営に支障が出ているという現状があります。より一層確かな情報発信をして今の課題に対応しなければならぬと考えています。(文責:総務部長兼事務局長 平野宏幸)

# JAAF 一般財団法人兵庫陸上競技協会

HYOGO

〒655-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1-6 神戸市生涯学習支援センター内  
TEL: 078-231-1771 FAX: 078-231-1772  
http://www.haaa.jp/index2.html

桜前線も一日一日北上し、トラックシーズンに入りました。第96回日本陸上競技選手権大会男女20km競歩が6甲アイランド甲南大学周辺公認コースで2月17日開催されました。この大会では鈴木雄介選手(富士通)が日本新記録を樹立し、世界陸上競技選手権大会(モスクワ)出場が内定しました。3月10日には、天皇盃 都道府県対抗男子駅伝競走大会優勝、皇后盃 女子駅伝2位の競技成績報告会を盛大に開催しました。また、一般財団法人化二期目を迎え、より一層充実した協会運営をめざしています。平成25年度競技会が4月13・14日に県記録会を皮切りに、4月20・21日には、第61回兵庫リレーカーニバルが実施されます。世界陸上競技選手権大会標準記録突破者が一人でも多く出るような競技会になればと準備しています。

# JAAF 一般財団法人鳥根陸上競技協会

SHIMANE

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内  
TEL: 0852-23-6686 FAX: 0852-23-6686  
http://www4.ocn.ne.jp/~kenriku/

松江市が生んだ近代スポーツの父「岸 清一先生」の名を冠した第3回まつえレディースハーフマラソン兼第16回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会は、3月17日松江城大手前を発着とする陸連公認コースにハーフの部87名が出場して行われた。最後まで熱のこもったレースとなり、オバレ・ドリカ選手(日立製作所)が逃げ切り2度目の優勝を飾り、2位は上野泰加選手(筑波大学)、3位に三井綾子選手(立命館大学)と続いた。また、2部10kmの部は萩原歩美選手(ユニクロ)が初優勝した。今年は、ユニバーシアード(ロシア・カザン)代表選考会を兼ねた大会でもあり、上野選手、三井選手、5位の奥野有紀選手(京都産業大学)が代表の座を得た。ハーフ、10kmの(ほか3km、1kmの4部門計1758名が陽春の城下町松江路を駆け抜けた。(文責:事務局長 赤名磨彦)

2013年度主要競技会日程	198
理事会報告	199
強化関連情報(強化委員会)	
オリンピック育成競技者長距離U19海外研修合宿報告 (強化育成部長距離主任 荻原知紀・強化育成部男子長距離 足立幸永)	202
オリンピック育成競技者短距離U23・U19海外研修合宿報告 (強化育成部長 山崎一彦)	203
第20回アジア陸上競技選手権大会(2013/チェンナイ) 日本代表選手選考要項	203
第6回東アジア競技大会(2013/天津)日本代表選手選考要項 国際陸連(IAAF)医事ドーピング防止コミッション(MADC)会議報告 (理事・医事委員長 山澤文裕)	205
“日清食品カップ”第15回全国小学生クロスカントリーリレー研 修大会報告 (普及育成委員会普及育成部長 渡部誠)	206
国際陸連(IAAF)競歩委員会報告(強化委員会競歩部長 今村文男)	208
国際陸連(IAAF)技術委員会報告(事務局事業部専任課長 関幸生)	209
大会観戦ガイド	211
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

陸連時報編集委員

◇編集委員

河野 洋平 (陸連会長)  
横川 浩 (陸連副会長)  
三宅 勝次 (陸連副会長)  
澤木 啓祐 (陸連副会長)  
尾縣 貢 (陸連専務理事)  
原田 康弘 (陸連強化委員長)  
風間 明 (陸連事務局長)  
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫

◇時報編集担当

繁田 進  
石塚 浩  
木越 清信  
宮田 宏  
本田香代子  
森谷 真咲

事務局からのお知らせ

◆◇2013年トラック&フィールドシーズンが始まります!◆◇

いよいよ今夏8月開催のモスクワ世界陸上競技選手権の代表の座をかけた

2013年トラック&フィールドシーズンが始まります!

日本陸上競技連盟主催の競技会の日程は、公式ホームページ

<http://www.jaaf.or.jp/pdf/2013calendar.pdf> に掲載しています。

是非、競技場でご声援をお願い致します!

◆◇陸連時報を本連盟公式ホームページで公開しています!◆◇

2013年1月号から陸連時報を本連盟公式ホームページで公開しています。

アドレスは、<http://www.jaaf.or.jp/rikuren/jihou.html> です。

JAAF



日本陸連公式マスコット  
“アスリオン”



公 告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。公益財団法人 日本陸上競技連盟

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟事務局 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>